

平成二十六年十二月一日発行(毎月一回一日)
書象 第六十二卷 第十二号 通巻七〇九号

書象



日本書道芸術協会

2014 - 12

厚き友情

理事長 田中節山

今年ももう十二月号が発刊されました。十二月になるといつも思い出されるのは、上條信山先生と中国の啓功（けいこう）先生との厚い友情です。啓功先生は、中国書法家協会名誉主席、全人代の代表で、鑑定家としても名高い先生、中国清王室愛新覺羅の末裔で、高貴なお方です。上條先生は、先師宮島詠士先生とその師、中国の張廉卿（裕釗）先生が交わされた深い友誼を讃えられて、中国保定市（一九八六年）と、鄂州市（一九九七年）に両市との共同事業として「張裕釗宮島大八師生紀念碑」を建立されました。その二年前には二人の展覽会を中国北京に於いて開かれました。



写真は信山先生が北京で開催された師生二人展の折、揮毫された作品を啓功先生が自ら手持ちされたお姿です。

その折以来、啓功先生との交遊は深く、保定市の師生碑に刻む文章は啓功先生が、快くひき受けられました。早速信山先生は揮毫され、原稿を北京の啓功先生に校正していただきました。田中、内藤、市澤が十二月二十七日厳寒の北京に派遣されました。啓功先生はお弟子さんと二人で例の分厚い綿入れのコートを重ね着して私たちのホテルに來られ、信山先生ご揮毫の原稿をにこやかに拝閲されました。啓功先生のお墨付きをいただき、信山先生は早速保定市に届けられ、翌年（一九八六年）碑の完成式が行われました。当日、啓功先生はわざわざ式典に來られて、上條先生と厚い握手を交わされました。その後、信山先生の書業六十年記念展にはわざわざ遠路東京までお来し下さいました。

上條先生がお亡くなりになられて十七年、私たちの手で書象会を継続して来ました。信山先生の中国の先生方への思いは書象会の魂です。昨年是有志で鄂州を訪れました。

先生の発刊された『書象誌』が七〇〇号を迎え書象会もますます盛んです。今、書象会本部では、更に前進すべく今後のあり方を、書象展、書象誌、研修部と数次の会合を持ち、新年度から実践すべく検討中です。やがて二年後には書象展が五五回展という金字塔を打建てます。勉強を積み、皆で力を合わせて進んでいきたいものです。



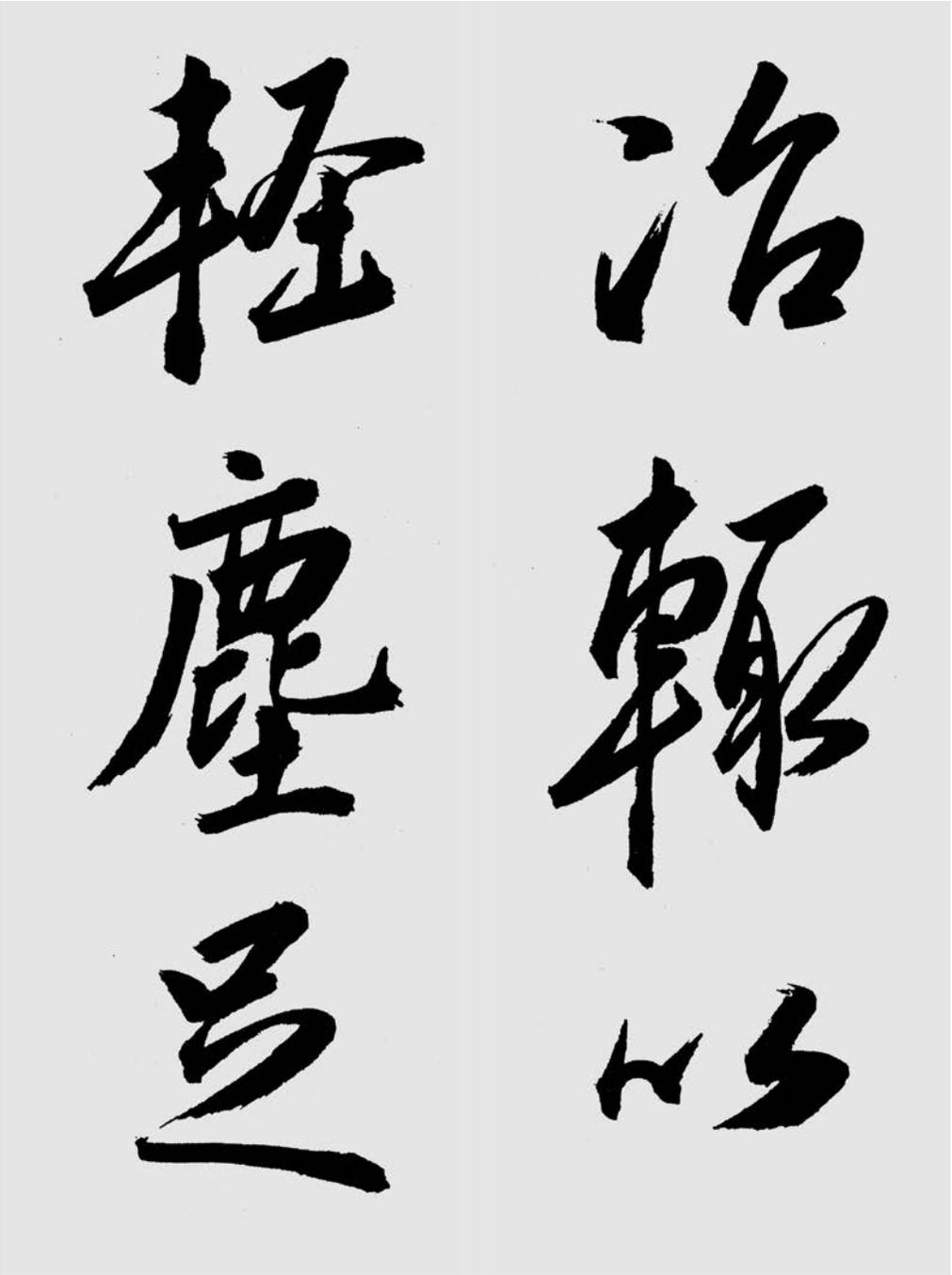
一隅を挙げて之に示す（論語）

12月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付
手本は卦線入りですが、出品者は卦線のない半紙を使用してください。

行書臨書規定（師範・準師範・段位）

集王聖教序

上條信山先生書



治はすなわち輕塵を以って（岳）を足し。

12月20日必着
出品券を貼付

筆脈を意識して
スムーズに点画
が流れるように
しましょう。以
下の図版により
偏と旁の關係、
文字の大小等に
留意して書き進
めて下さい。



〔治〕



〔輒（すなわち）〕



〔輕〕：旁（土の筆順が異なる）



〔塵〕



〔足〕



抱風

風を抱く

・中心の位置に注意して書く。

「抱」

・偏とつくりの間にスッキリあける。
・最終画の空間を広くする。



「風」

・強い背勢の構造、八がまえのそり具合に注意する。
・八がまえの中の空間を狭くしない。
・虫が小さすぎないよう、ゆったり書く。





一寸の草に（二）影あり 今日（能）月（子規）

12月20日必着
出品券を貼付

・一行目の傾きは「影」字が、三行目の傾きは「月」字が受けてバランスをとっている。

・漢字を主体とした字数の少ない構成のため線質余白がより一層強調される。大きく遅筆することを心がける。

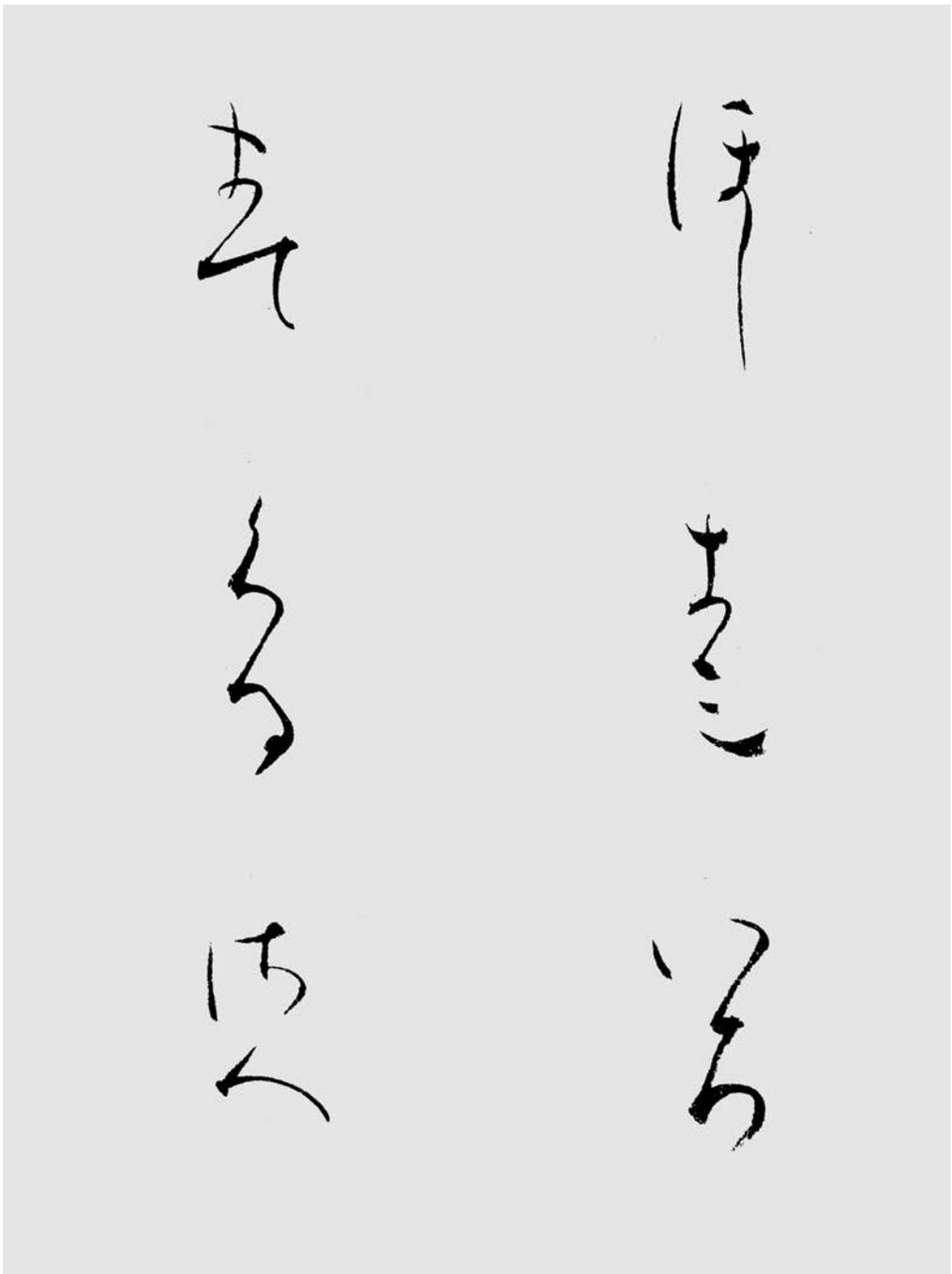
・「草」

・線の細太の変化に注意。



仮名規定 (級位)

上條信山先生書



ほしき(支)み(三)いろま(末)てくるさ(佐)へ

・「ほ」の終筆を小さく
まるめて、「し」に連
なる。「し」字は右よ
りにつくる。



・同じく…部をかるく曲
げて、連続線は直線で
書く。



・印のところでつき返
すようにして横画を書
く。



・「ま」の第一画、肩を
下げる。「て」を横広く、
第一画を平らにひく。



・…印のところで筆をつ
き返すようにする。



・「くる」と同様の書き
方である。



ヒポクラテスの名によれる

ギリシヤの昔斯道の光明

西のあさほらけ東亜は

更にけろかなる

ヒポクラテスの名によれるギリシヤの昔斯道の光明
西のあさほらけ東亜は 更にはるかなる

12月20日必着

出品券を貼付
入選作のみ発表します

漢字、カタカナ、ひらかな交りの調和体である。

文字の大きさ、間隔などのびやかにバランスをとっている。

漢字・カタカナの転折は逆筆をしっかりと効かせて重厚な線質で仕上げよう。

テテ名昔光明東

漢字条幅規定

市澤静山先生書

段級位を明記のこと

閑吟幽情を暢ばす

静山

閑吟幽情を暢ばす(杜旆)

・無理のない点画の連続で書かれています。画の方向、偏と旁の関係などをよく観ましよう。

仮名条幅随意

上條信山先生書

入選作のみ発表します

出品券を貼付

わが(可)宿のいざさ(ゝ)むらた(多)け(遣)ふくか(可)ぜ(世)の
音の(能)か(可)そ(所)け(希)きこの夕べか(可)も(裳)

わが(可)宿のいざさ(ゝ)むらた(多)け(遣)ふくか(可)ぜ(世)の

・大胆に墨色の変化をつけ、明るくまとめる。

・「か(可)ぜ(世)」・「音の(能)」・「この夕べ」はP14を参照。

流時
の
代

中学一年規定

小淵石峯先生書

天松
守本
城

中学二・三年規定

市澤靜山先生書

坂急
道大

小学五年規定

虎井曉鐘先生書

發
國
員
書

小学六年規定

樋口玄山先生書

花心
足次

小学三年規定

成瀬惠苑先生書

花心
屋

小学四年規定

荻田光山先生書

友 友

小学一年規定

渡辺華雪先生書

人 人
心 心

小学二年規定

燕木珠紅先生書

小学五・六年規定

露崎玄峯先生書

学校の図書館に、エジプト
の象形文字について書いた
本があります。

名前 支部 年 級段

小学三・四年規定

宮本耕成先生書

父のふる里にかえた時、
雪でまっ白な日本アルプス
が見えました。

名前 支部 年 級段

小学一・二年規定

高瀬霞山先生書

あり	口	人
り	や	の
ま	目	か
す	、	ら
。	手	だ
なまえ	や	に
支部	足	は
年	が	、
きゆうん		

※出品券を貼付して下さい。

一般（師範・準師範・段位）・一般（級位）・中学生はペン使用のこと（中学生は鉛筆も可）。小学生は鉛筆使用のこと。
作品の大きさ→たて18cmよこ7cm小一・二課題→21cmのマスキの紙を使用する。小三・四・五・六課題→21cm巾の罫線を引く。

「囿」は筆順に気をつけ、たて長の長方形に書く。「書」は横画をつめて書き、たて長に。「委」は女の横画を十分に長く書き文字を安定させる。「員」は全体が長方形になるように書く。

小学六年

「花」はくさかんむりと化のバランス。「屋」はしかばねと内部のつり合い。終筆は長めに引く。「さん」は下方がせまい逆三角形に。「ん」の概形は正三角形に。

小学四年

「て」の横画はやや右上がりに長め、終筆は止める。「ふ」の外形はほぼ正三角形に。「く」は運筆の方向、折れの角度に気をつける。「ろ」の斜画は伸び伸びと。

小学二年

「急」は上下ほぼ三等分にして心はどっしりと落ち着かせる。「坂」の旁は底辺の広い安定した字形に。「道」は首をしっかり「レ」の上ののせるように書く。

小学五年

「い」は二つの線が直線的にならないように。「そ」は折れかえすところははっきりと筆を転換させる。「ぎ」の四画目は続ける気持ちで。「足」は口を小さく、下を大きく。

小学三年

「や」の一画目はやや右上がりに横に長く書く。終筆の方向に注意する。「ま」の一・二画目はやや右上がりに書き長さに気をつける。

小学一年

張猛龍碑 (碑陰)

ちようもうりようひ

北魏 正光三年(五二二)

今月のテーマ

写実的臨書

中字(四字〜六字)

書き方

- ① 文字数を間違えないで出品して下さい。
- ② 続き文字でなくても構いません。
- ③ 落款を入れて下さい。
- ④ 作品の表左下に、支部名と氏名又は号を鉛筆で記入して下さい。そして古典研究の出品券を貼付して下さい。

(編集部)

◆解説

張猛龍碑の字形はアンバランスが主となって極めて変化に富んでいる。アンバランスがバラバラにはならず、気脈は一貫し、有機的構造をもちアンバランスのバランスを見事に示している。今回はその中の一つ、「文字の左半分を強調する」を学んでみよう。

魯縣令杜



〔釈文〕主簿・太□元哲。督汝陽・弁二縣令。魯縣令・杜僧壽。汝陽縣令明景欣。

12月号から新しい研究課題が始まります

東京医科大学 学校歌碑

校歌碑に寄す 上條 信山

甲府の古守豊甫先生から、東京医科大学の校歌を揮毫して欲しいと御話のあったのは、昭和六十年のことである。東洋一を誇る東京医科大学の新病院の前に校歌の碑を建てるということであった。

古守先生からは、以前にも山梨県上野原町の「長寿村桐原」の碑の文字をお頼まれたことがある。桐原は先生のライフワークの一つである長寿の研究の場となっている村である。その文字は、大字でがっしりしたぶ厚い巨大な石に刻まれて、風光明媚な村の入口にどっしりと建っている。

この度の石も、長寿村のときと同じ三智石材の安山岩だそうである。石については殊のほか造詣の深い古守先生と専門家の三智社長石坂氏が選んだ石のことだからさぞや豪快なものであろうと想像していた。案の定送られて来た石の紙形は縦六尺に横一間半という大きなものであった。

土井晩翠作詞の校歌は四番まである。長文である上に楷書ひらがな混じりで書かなければならない。元来かなは草書であるので楷書との調和は極く困難なものである。しかし校歌の精神を表徴すべくすがすがしく格調高くと苦心を拂った。

六十一年三月十五日除幕式が行われた。私もお招きを受け、林立する高層ビルの中に厳然と立つ碑を見た。それは雄大で東京医大の将来を表徴している姿そのものであった。

私にはこの碑が、石を愛で石の雄大さを心とする古守先生の篤い愛校心と、母校の将来に寄せる夢の結晶のように思われた。(昭和六十二年)

校歌碑に思う 古守 豊甫

前後略

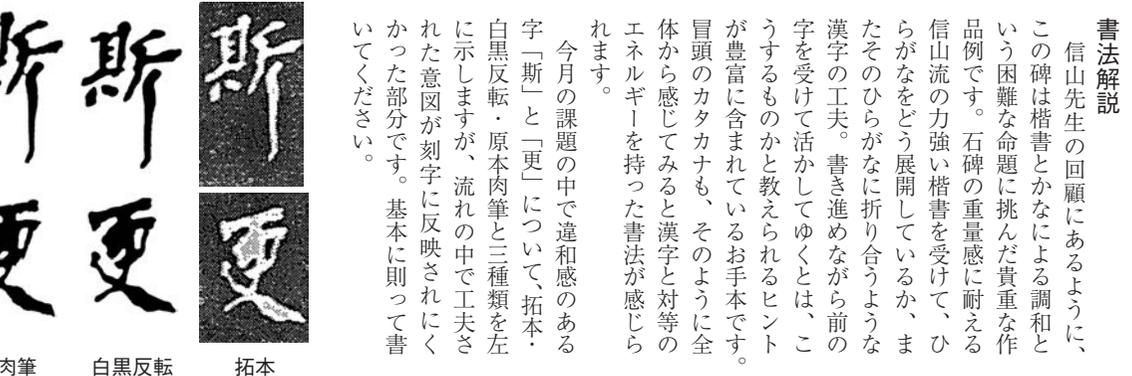
信山先生は我国書道界では異色の存在だ。恩師は宮島詠士で、そのまた師の張廉卿の二人に強い影響を受け、自ら「信山流」をのみ出し、書風は雄渾、気品高い、私は光栄にも昭和四七年より一三年間主治医をつとめたので碑の話はとんとん拍子に進んだ。三ヶ月間で揮毫は終わり、巨大な碑石とこれを支える更に巨大な台石も決まった。

こんなある日のこと三智石材からの電話で石碑を見に行つた。見ると鏡のごとく磨き上げられた安山岩には折からの八ヶ岳風の烈風下、夕陽が輝き碑石全体が真赤に燃え、その中に端正な信山流の文字が浮び上り、恰も天から降って湧いた一大宝石を見る思いがした。石坂氏と私は茫然自失ひたすらこれを見つめているのに気がついた。

書法解説

信山先生の回顧にあるように、この碑は楷書とかなによる調和という困難な命題に挑んだ貴重な作品例です。石碑の重量感に耐える信山流の力強い楷書を受けて、ひらがなをどう展開しているか、またそのひらがなに折り合うような漢字の工夫。書き進めながら前の字を受けて活かしてゆくとは、こうするものかと教えられるヒントが豊富に含まれているお手本です。冒頭のカタカナも、そのように全体から感じてみると漢字と対等のエネルギーを持った書法が感じられます。

今月の課題の中で違和感のある字「斯」と「更」について、拓本・白黒反転・原本肉筆と三種類を左に示しますが、流れの中で工夫された意図が刻字に反映されにくかった部分です。基本に則って書いてください。



肉筆 白黒反転 拓本



第36回

書象土曜会展

会期 平成二十六年十月七日(火)〜十二日(日)
会場 銀座 大黒屋ギャラリー一六階

特別出陳

上條信山先生

特別出陳
上條信山先生

出品者

池上湖心
神谷蘭月
武田紅春
長谷川石心
横山花苑

小川仙草
川原石翠
立花山翠
浜野史翠

荻野松風
鈴木花仙
南條光

小倉煌雪
高橋白羊
西川麗惠

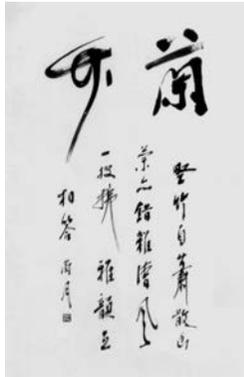
上條窓苑
竹内紅雪
根岸鈴華
山本草心

高橋白羊

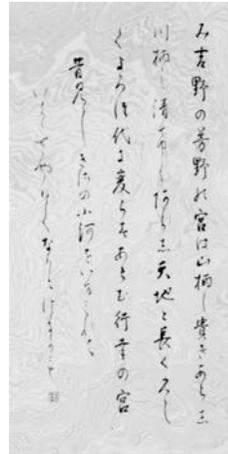
竹内紅雪



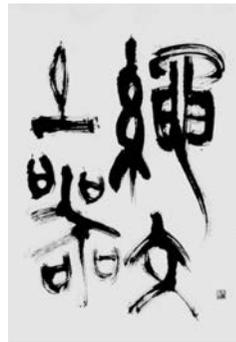
上條信山先生



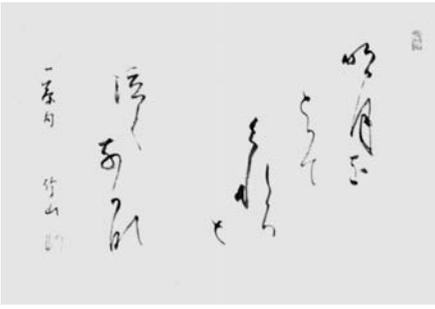
神谷蘭月



長谷川石心



武田紅春



特別出陳

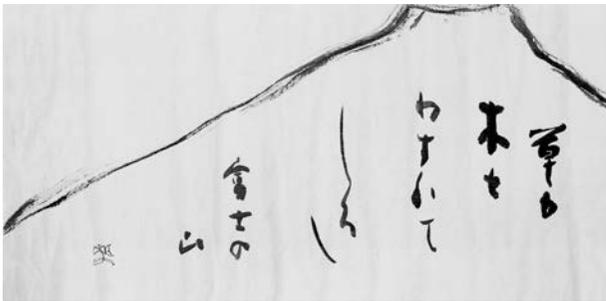


第36回書象土曜会展に寄せて

上條 貞子

今年も書象土曜会展の開かれる時となりました。思いがけない事件や事故で、騒然としていた昨今ですが、そのような中で三十六年もの間途絶えることなく書象土曜会展が続いていることに、あらためて驚き、感動を禁じ得ません。会員の皆様の心を貫く書への強い思いと、田中節山、市澤静山、高田墨山、内藤望山先生方のご指導の賜物と心より感謝し、お祝い申し上げます。

平成二十六年十月吉日



第10回記念 藤岡月華書展

会 期 9月30日(月)～10月4日(土)

会 場 銀座 新井画廊



秋の好天のもと、第十回記念藤岡月華書展が、東京・銀座の新井画廊で開催されました。賑やかなオープニングパーティーに始まり、さまざまな分野の方々にご来場いただきました。

今回の作品の発想、制作の原点は、普段身の回りで心に響いた事柄を中心にされたとのことです。甲骨文を主体に、御自宅の東屋のために刻字された看板を含め四十数点に及びました。たおやかさの中、線に緊張があり引き込まれました。また、彫刻家平櫛田中語録のかな大作「いまやらねばいつでさる わしがやらねばたれがやる」は、力強く見るからに信山風でした。第二回書展において、故上條信山先生が図録の冒頭に寄せられた「いずれの作品も形がおもしろく、線には力と味わいがあり格調高いものになっている。」というおことばが、再び浮かび上がってきます。

会場には、先生のお庭の紅白の水引、柿フジバカマなどもアンティークの花瓶とともにしつらわれ、居心地のよい空間でした。書歴六十八年になられる先生は、沸き上がる書への創作意欲をお持ちになり、傘寿にしますます輝いていらっしゃいます。一門下生として、月華先生との時間はなんと貴重なものでしょうか。会期中には上條節夫様ご夫妻、唐沢かつ子様、小平市長小林様、田中理事長ご夫妻、書象会の方々の御高覧いただきありがとうございます。 (鹿島未華 記)

中一 芳野 葵 前進	中二 練 合宿 習 白 中二 上 京 花	中二 現 理 実 想 と 中二 末 田 椋 子	現 理 実 想 と 中三 綾 乃	現 理 実 想 と 中三 窪 知 久	中三 創 造 中三 大 和 田 望 美
中一 平 田 早 穂 前進	新 初 夏 の 緑 夏 の 中二 由 稀	中二 現 理 実 想 の 中二 山 岸 広 祐	大 宇 宙 之 俯 之 中二 新 夏	現 理 実 想 と 中三 彩 夏	中三 希 望 の 実 現 中三 染 谷 紀 織
中一 豊 田 華 衣 集 団 活 動	中二 現 理 実 想 と 中二 山 本 聖 奈	中二 日 本 の 文 化 中二 風 澤 終 輝	宇 宙 へ の 旅 中二 彩 奈	現 理 実 想 と 中三 輝 明	中二 江 夏 安 陸 人 也 中二 泉 さ ら ら
李 光 中一 圓 真 知 湖 水 の 鳥	中二 大 声 で 笑 う 中二 橋 本 千 聖	現 理 実 想 と 中二 森 航 汰	情 趣 中二 市 川 結 衣	中三 弥 勒 中三 松 田 杏 華	中三 鳴 鳳 在 樹 白 駒 中三 加 藤 穂 乃 香
森 悠 中一 半 田 葉 穂 星 夜 空 座	中二 現 理 実 想 と 中二 大 野 里 花 子	現 理 実 想 と 中二 香 月	目 標 の 達 成 中二 万 里 子	中三 中 尊 寺 金 色 堂 中三 吉 池 和 生	中三 大 声 で 笑 う 中三 上 原 彩 香
白 井 朋 哉 祈 平 和 を	中一 象 形 文 字 中一 吉 池 愛 未	景 色 雄 大 な 中二 優 奈	現 理 実 想 と 中三 夏 実	中三 知 識 中三 小 松 美 優	中三 南 踰 丹 傲 中三 酒 井 香 翔

天沼中 珠紅半田 李光園真知 北府豊田 聖徳女中 柏心吉池 硯雲大野 青雲德永 芙蓉五山本 正桂関上 右文齋藤 凜心緑川 皓花森航 光ヶ丘山岸 名東末田 玄嶽五十 北府熊谷 高社市川 玄樞会佐藤 聖徳女中安原 月照澤小松 照澤小松 湊紅吉池 珠紅松田 静翠小林 凜心丸碧 皓花室屋 光ヶ丘酒井 美業会上原 玄樞会泉 華雪染谷 大和田望美

平和を
祈る
大石 愛理

自由
行動
沙羅

歴史
中一 小林 千鶴

緑地
中一 樽井 駿典

少年
野球
六年 井上 万結

太陽
と月
小六 辺見 紀香

心に
太陽
小六 萩原 未結

南十
字星
小六 富岡 愛香

研究
発表
六年 佐藤 優太

野生
草花
六年 高橋 夏樹

将来
の夢
小六 佐藤 千尋

朝の
市場
有虹小六 伊藤 璃音

太陽
と月
小六 愛梨

野の
花道
大田 六年 川原 遼

透明
な水
小六 百瀬 まゆ

学生
時代
河小六 瑞季

朝の
市場
小六 麻衣 花

行列
小六 里 紗

反省
小五 土屋 瑞乃

花火
大会
小五 千葉 月美

青空
小四 孫悠 小四 松村 こさい

入道
ぐも
小四 吉井 理紗

美しい
山
練馬 小五 宮本 真優

平和
小五 茂木 真子

水
びあ
杉小三 小川 暁

はた
た空
小三 花

力
よく
三年 中山 七星

おす
な
小ニ あら 礼

え
た
う
小ニ ことみ

白
ゆい
小ニ 中村 あい

天沼中 大石 愛理
成城 新屋 沙羅
美苑 小林 千鶴
茜井 樽井 駿典
有象会 井上 万結
柏心 辺見 紀香
長寿原 萩原 未結
高社 富岡 愛香
書之会 佐藤 優太
光ヶ丘 高橋 夏樹
有象虹 伊藤 璃音
たけのこ 花岡 愛梨
大田 川原 遼
ひまわり 百瀬 まゆ
洞 宮田 瑞季
虹苑 榎本 麻衣 花
倭 立川 里 紗
若竹 土屋 璃乃
光ヶ丘 千葉 月美
珠悠 松村 こうへい
和 吉井 理紗
練馬 宮本 真優
倭 茂木 真子
杉 小川 暁
汀楓 岸本 帆花
三池 中山 七星
富貴会 菊地 あられ
玄樸会 青木 琴美
長寿原 中村 あい

永らく書象誌の誌上展の形態をとってきた全国学生展ですが、第49回書象展より、上位受賞者の作品を国立新美術館書象展会場の特別コーナーに展示し、多くの来場者から好評を得ています。

来年度の第54回書象展でも今回の学生展の受賞者の作品展示を予定しています。ご期待下さい。

十月十九・二十日 松本市美術館参観・信州美ヶ原温泉一泊の旅に参加して

「書は生きている」

デイビット礼山

一日目、最初は松本市柔道剣道場に案内されました。書とは関係無いような体育館でいったい何が始まるのかと思っていると、音楽が始まり、学生達が踊るように大きな筆で様々な色を使って文字を書き始めました。初めて見る不思議な光景、高校生による書道パフォーマンスです。気がつけば、その躍動感ある世界にひき込まれていました。この一瞬のために練習を重ねてきたに違いありません。学生達の書き終えた後の晴れやかな顔。それは、多くの書を志す若い人達に自信を与えることでしょうか。彼らの真摯に打ち込む姿に、私も頑張らなくてはとあらためて思いました。

松本市美術館の秋山白巖展では、襖、屏風、幟、拓本等も展示され、どの作品も温かで友好的な精神で満ち溢れていました。これほど大きな磁力を持った書家があり紹介されてこなかったことに驚きました。学芸員の大島氏の尽力は素晴らしいものだと思います。会場ではパフォーマンスを終えた学生達が白巖の書の前で熱心に語り合っていました。きっと彼らは伝統からインスピレーションを得て、全く新しい書の世界を切り開いて行くことでしょう。秋山白巖の書の心が受け継がれてゆく姿を見たような気がしました。

旅館へ行く前に深志神社にて白巖揮毫碑を見学しました。実物を見て、拓本を採ることがどんなに大変だったかと思いました。

翌日は旅館のマイクログラスで、上條信山先生揮毫碑巡りをしました。敬老之碑、朝日村開村百年記念碑、望郷碑、美術館で見た拓本とはまたちがった素晴らしさがあります。上條信山先生の上京する前の若い当時の書の実物と、晩年の作「望郷」を揮毫碑と合わせて見学できたことはとても感慨深いことでした。

唐沢蕎麦で昼食後松本市内の蔵の町を散策しました。

田中理事長御夫妻も参加され、高田墨山先生、中村先生、山口先生、柳澤先生に解説いただきながら、楽しく有意義な旅行となりました。



アルプス公園敬老之碑の前で



秋山白巖展展覧の幟旗



温泉のお楽しみ



望郷碑保存会会長森村静馬氏を囲んで

第19回書泉会展

初秋の黄金色の稲穂を渡る風も爽やかな季節になった山形市内にて標記展が開催されました。

今年のテーマは「心」とし、六十三名の会員が八十点の出品となりました。

真夏の中、書展のための錬成会を実施して、額に汗して「心」を込めた作品になったことは言うまでもありません。「心太」のトコロテンの作品あり、カボチャへの刻字あり、笑みのこぼれる書展でした。

また、地元紙に掲載され、来場者も六百名を数え盛会でした。会員の「心」を込めた作品に、鑑賞いただいた皆様にも喜んでもらえたものと思います。

期間中、会員の手入れのされた盆栽も飾られ、作品を一層盛り上げてくれました。

これからも、会員一同自己研鑽し向上を誓い合いました。

(神保緑泉 記)

会期 九月十二日～十五日
会場 文翔館(旧山形県庁)
主宰 原田柳泉先生



原田先生と共に



作品に見入る人々



受賞作品を手に胸を張って



真剣に席書している子供達

第45回芙蓉会書道展

会期 十月五日(日)～八日(水)
会場 富津市役所市民ホール
主催 書道研究芙蓉会

台風の影響で天候があやぶまれる中、我が会最大の行事である芙蓉会展を開催しました。初日の席書大会は入学前の児童から中学生一・二六名の中から選ばれた四三名の子供達が、大勢の見守る中緊張した表情で、決められた紙面に腕を揮っておりました。

田中、内藤、中村各先生に御来臨頂き、審査もして頂き、富津市長賞をはじめ書象会理事長賞等各賞が決まり表彰式を行いました。子供達はこの賞をもらう為に一年間努力してきたので、とても誇らしげでうれしそうでした。

中村先生の揮毫では楽しい語りど迫力ある筆さばきに会場は大いに盛り上がりました。

故糟谷壺天先生のはじめられた芙蓉会書道展も今年で四五回展を迎え、今回もより盛り上げる為書象会から田中節山先生はじめ、中村、高田、二瓶、片倉、山口各先生の作品を特別出品して戴きありがとうございました。多大なるご協力に会員一同心から感謝申し上げます。

(嶋桂壺玉 記)

第六回高風書道会展

会期 十月十日～十三日
会場 谷口文栄堂ギャラリー
主宰 畑中高山先生

一昨年の主宰高山先生の個展から早いもので一年、会場を同じく、福井市内の「文栄堂ギャラリー」で第六回高風書道会展を開催いたしました。今回は公募展サイズの信山バリの作品と、会員全員に課せられた半切の横額作品。アクリル板を削り、今話題の青色発光ダイオードで文字を浮かび上がらせたライトスクラッチ作品。そして、今回初めて参加した可愛らしい小学生の軸作品と会場一杯の展示になりました。

初日から県内の各派の先生方、知人、家族と大勢の方々にお越しいただき「さわやかで、日頃の制作態度がよくわかる書展」と好評をいただきました。先生のもとで信山流を学ぶことのできる喜びを感じた四日間でした。会員一同、更なる成長を目指して精進して参りたいと思っております。この書展に協力していただいた全ての人に感謝いたします。

(斉藤祥仙 記)



家族連れでにぎわう会場



畑中先生を囲んで

第37回謙慎書道会東部展

会期 八月三日(日)～六日(水)
会場 茨城県立茨城県民文化センター
主催 謙慎書道会東部展実行委員会



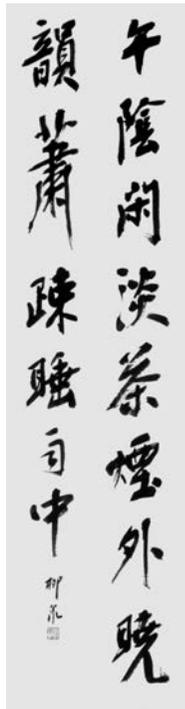
高瀬 霞山



大澤 梢光



波江 蛟雲



原田 柳泉



結城 正憲

木曜会 古典臨書作品

木曜会は通常は古典研究の発表の場です。大きな展覧会出品時は作品研究です。作品づくりに古典研究なくては深化はありません。その研究成果を「覧下よこ」。

争坐位文稿（唐 顔真卿）

宮本耕成



細字多字数な原帖を実に剛健な用筆で表現した作品的臨書である。線の方向、大小のバランス、曲直の変化等は巧みな腕法で統一して光る。余白と文字空間の響きが快い。大胆で大らかな用筆の所産である。

（解説 内藤望山）

山谷題跋語（清 何紹基）

柳澤玄嶽



何紹基は清代屈指の書法の実力者で、行・草書は顔真卿の争坐位帖などから得たものが多い。字中の懐の大きさ、自由自在で変化に満ちた一点一画など何紹基書法に迫らんとする作者の気迫を感じる。

（解説 虎井曉鐘）

争坐位文稿（唐 顔真卿）

竹内墨洋



この書は古くから魯公三稿の一つとして定評がある。円勁で情趣に富んだ特徴を巧みにとらえて臨書している。重厚な線はもちろんだが文字に大小をおりませ、一気に数字を書き、線に粘着力がある。顔真卿の行書の風格を十分に表現出来た作品である。

（解説 中村巍山）

特待生紹介

(学年は試験合格時のものです)

特待生になつて

珠悠支部 中三

高田 ゆめの



私は、小学校一年生から習字を続けてきました。特待生になれて嬉しい反面、驚きでいっぱいでした。特に、近くで支えてくれた家族、先生のおかげです。次は、毛筆で特待生になれるよう頑張りたいです。支部長先生より一言、勉強とクラブ活動と書道を両立して嬉しいです。これからも自分で決めた事に真摯に取り組むよい所を大切に。

特待生として

汀楓支部 中三

二階堂 汐夏



特待生になった今、習字を続けて良かったと心から思っています。一度硬筆が落ちて、悲しい思いをしたから、今回受かって、本当に良かったです。これからも勉強と両立して頑張っていきたいです。支部長先生より一言、二冠達成おめでとう。高校生になつても書道を続けるとの事、先生も期待しています。

これからも頑張ります

正桂支部 中三

荒田 望音



先生には、小学校のころから今まで、ずっと習字を教えていただきました。先生のおかげで、今では字をきれいに書くことができるようになりました。そして特待生になる事ができました。とても嬉しいです。又頑張ります。支部長先生より一言、一つの事を、最後までやり通す事ができて、特待生合格はあなたの自信につながったと思います。おめでとう!!

初の特待生誕生

照澤支部 中三

小松 美優



小学三年生から習字を習い続け、毛筆で特待生になることができてとても嬉しかったです。ずっと見守ってくれた家族、指導してくださった先生に感謝してこれからも継続し更に良い字を書いていきたいです。支部長先生より一言、照澤学舎開舎八年、初の特待生誕生。おめでとう。美優さんもうれしいが先生もうれしい。ありがとう。

努力

龍文支部 中二

佐藤 公紀



僕は、小学校一年から書道を習い始めました。段を上げていくにつれ、特待生を意識しはじめました。そして五月に、毛筆の特待生試験を受け、無事一回で合格しました。硬筆も特待生になれるよう努力していきたいです。支部長先生より一言、七年間、真面目に通い努力を重ねました。公紀君のおおらかな作品は魅力的です。特待生おめでとう!!

夢の……

八潮支部 中二

西尾 深優



夢にまでみた特待生合格は本当にうれしいです。これも先生がご指導して下さったおかげだと思っています。本当にありがとうございました。これからも毛筆でも、特待生合格できるように頑張りたいと思います。支部長先生より一言、特待生合格おめでとう。何度も書き直して作品を仕上げた努力家。更に上達することを期待しています。

九年目で

中央支部 中三

阿部 泰之



今回硬筆の特待生になることができ、お習字を始めて九年目で毛筆・硬筆ともに特待生となることができました。途中一年休んだこともありましたが、先生のおかげで合格できました。本当にありがとうございます。支部長先生より一言、特待生合格おめでとう。努力の結果見事に二冠達成しました。再なる目標に向かって頑張ってください。

嬉しい!

月支部 中二

鈴木 侘奈



私は、小学一年生に書道を始めて七年目でやっと特待生になることができました。特待生になれたときはとても嬉しかったです。特待生になれたのは、先生や親、まわりの方たちのおかげです。ありがとうございました。支部長先生より一言、部活と塾で練習時間が短くなったけど、休まずがんばってよかったね。集中力と努力の結果です!!

二回目の特待生

聖支部 中三

滝澤 楓



去年の秋に硬筆で特待生になり、今回毛筆でも特待生になることができました。本当にうれしいです。今まで書道を教えて下さった先生や、色々な面で協力してくれた家族や友達にも、本当に感謝です。支部長先生より一言、念願の二冠達成！生徒会の役員をしながら頑張ったね。家族の応援と期待に添えた感激を忘れずに。

特待生紹介

(学年は試験合格時のものです)

次に向けて

美苑支部 中二

須藤 司 貴



小一から習字を習い始め、実に八年。やっと特待生になることができました。全く段が上がらない時もありましたが、この八年間の努力がやっと報われました。次は硬筆です。早く二冠とって、喜びに浸りたいです。支部長先生より一言 努力が実り、特待生合格おめでとう。お母さんがライバル？将来、書象展親子出品めざしましょう！

感謝

中央支部 中二

小林 なみ



私は小学校一年生から書道を習い始め、去年は硬筆が特待生になり、今回は毛筆が特待生になる事ができました。特待生になる事ができたのも、ご指導してくださった恩田先生のおかげです。ありがとうございます。支部長先生より一言 二冠達成おめでとう。真剣にお稽古してきた成果です。今後の活躍も期待しています。

硬筆で特待生になって

杉支部 中二

小幡 哲 央



僕は、小学一年生のときに書道を習い始めました。中学生になると部活や勉強で忙しくなり、月に一回行けるか行けないかくらいの頻度で通うことになりましたが、苦手な毛筆でも特待生を取れるよう頑張りたいです。支部長先生より一言 忙しい生活になっても継続出来る意志の強い立派な中学生になりました。これからが楽しみです。

特待生になって

高社支部 中二

市川 結 衣



小学二年生から書道を始めて七年。先生の熱心な指導のおかげで、ようやく特待生になることができました。ありがとうございます。今後は、書道を楽しみながら二冠達成を目標に頑張っていきたいです。支部長先生より一言 合格おめでとう。物事に対する丁寧さと感覚の良さに加え努力も怠りませんね。二冠応援しています。

八年の歲月

北府支部 中二

白 戸 陸



僕は小学一年生から習字をはじめ、早くも八年の歲月が流れました。努力のかいあってついに、特待生になることが出来ました。これも先生のご指導のおかげです。毛筆も特待になれるよう頑張ります。支部長先生より一言 特待生合格おめでとう。勉強、部活と多忙な中お習字もよく頑張っています。更なる上達を期待します。

目標達成

八潮支部 中三

鶴 田 千 尋



今年で六年目に入りました。昨年、硬筆の特待生になり今回、毛筆も特待生になることができてとてもうれしです。ここまで来れるとは思っていませんでした。書道が続いて良かったと改めて感じました。支部長先生より一言 二冠達成おめでとう。特待生特集ページに作品が掲載されて喜ばしいことです。益々活躍して下さい。

念願の特待生

正桂支部 中三

杉 木 美 穂



私は小学校三年のときから母の勧めで始めました。特待生をとれたのは先生が改善点や書き方を細かく指導して下さったおかげです。先生そして書道を通じてくれた両親に感謝の気持ちでいっぱいです。支部長先生より一言 厳しい卓球部と書道で集中力をきたえて、見事に特待生に合格しましたね。本当におめでとう！！

目標達成

美菜支部 中三

鎌 田 安 紗 香



特待生という目標を達成することができて嬉しかったです。小学校二年生から今まで通わせてくれた両親、毎回送り迎えをしてくれた祖父母と優しく指導してくださった先生に感謝したいです。ありがとうございます。支部長先生より一言 合格おめでとう！中学生になりました。活との両立、遠路よく頑張りました。「継続は力なり」です。良かったネ。

憧れの特待生

大家会支部 中二

宇 田 川 莉 奈



私はこの特待生合格の通知を頂いたとき内心大喜びでした。小一から始めたこの習字で私は「特待生」というものに強い憧れを抱いていたからです。先生、ありがとうございます。これからも頑張ります。支部長先生より一言 憧れの特待生合格おめでとう。目標に向かって努力を重ねる莉奈さんの姿勢は、ほかの模範となります。

少年少女のページ 「わたしの会の仲間達」

北府支部 小六 本堂 菜月



お習字は、小学三年生から通っています。お稽古はいつもお友達と一緒に六年生になってめきめきと上達。頑張って書いています。将来がとても楽しみです。

長寿原支部 中三 田村 奎悟



穏やかで真面目な奎悟君。生徒会役員に立候補し文武両道を貫き、最近では力を付け秋の特待生試験に向け頑張っています。将来に期待しています。

照澤支部



小五 矢島 わかば
小五 矢島 大地
双子の兄妹です。大地君は大地のようにしっかりとした字を書きます。わかばさんは若葉のようにさわやかで明るい字を書きます。二人ともとても元気です。

青雲支部



小四 鶴田 力也
稽古にきた時の挨拶が大変きちんと出来、落着いてしっかり練習に励んでいます。学校では算数が得意で読書が大好きな力也君。今後が益々楽しみです。

須坂支部



中一 坂田 和希
多忙の中、遠くから通って書道が続けています。吹奏楽部ではクラリネット担当で、県コンクールには一年生ながらレギュラー出演した頑張り屋さんです。

溪月支部



小五 桑野 那菜
とてもやさしいお姉さん。家庭科の授業が大好きで、特にお料理が得意です。文字も益々、上達中。笑顔のかわいい、大和撫子です。

仙台支部



小二 今野 真帆
きれいな字を書けるおとなにという目標をもつて入会した真帆ちゃん、もともと字を書くのが好きだったのでグングン上達中！この調子でがんばろうね。

硯扇支部



中二 今井 優花
部活の音楽部でNHK合唱コンクールの全国大会に向けて練習中です。小さい時から「書道の先生」を目指して頑張っています。ずっと応援しています。

桜木支部



中三 山下 夏芽
書道と共に、小学校では絵手紙をやっていました。心の優しい子です。中学では、吹奏楽部に所属。根性の夏ちゃん。頑張れ。いつも、応援しています。

蒲田支部



中一 阿部山 佳奈子
お習字が好きで練習熱心。先輩達を追い越す勢いで頑張っている。部活はバドミントン部に在籍。上手に時間調整をして多才ぶりを発揮しています。

月支部



小六 神崎 沙和
消しゴムはんこ作りにはまっている沙和さんの将来の夢は習字の先生か本のさし絵画家のようなアート系。課題にまっすぐ取り組み姿が印象的！

汀楓支部



中三 西本 莉央
小六 西本 鈴央
莉央ちゃんは、特待生になり鈴ちゃんも続けとばかりに頑張っています。家庭では、料理やお菓子を作ったりと、仲の良い姉妹です。

書象会通信条幅研究会課題の解説（平成二十六年十一月～平成二十七年一月まで）



信山流

なんと伸びやかで、さつそうとした書きぶりでしょうか。まさしく信山流そのものです。

- ・「寒風拂」が三分の二を占めています。大胆な字形の大小の変化に留意のこと。
- ・「寒」「風」ともに上部をつめて、下方への広がりを取っている。右下への伸びやかな動きや流れに注意すること。
- ・「拂」はヘンとツクリの構造が狭くならないよう心がけること。
- ・墨は「寒」と「枯」でつける。「枯」は墨量が多すぎないように。

隸書



「意」、「如」、「心」の右下方向へ伸びる斜画は角度を変えて書かれています。同じ方向、同じ形状になれば平凡になります。筆順は図示を参考にして下さい。

「心」が二ヶ所に見えます。これは隸書独特の形で、楷書で言う第二画にあたる長画は二筆で書きます。一度短い縦画を引いた後それにあてがうように斜画を引きます。同様に「如」の「女」の筆二画にあたる部分も二筆で書かれます。「平」の縦画、太くしようとして側筆になつてはいけません。中鋒でゆつたりと運筆します。

仮名



字形は縦長で直線的な運筆と変化ある書風で、リズムカルな美しい連綿が魅力の手本です。

文字の大小や墨の濃淡、躍動感に満ちた線質が多彩な仮名の美を醸し出し、墨継ぎの場所、余白の取り方、潤渴の差が立体感を出しています。

一度墨をつけたら、数文字を書くようにして下さい。そして、穂先の動きや回転、リズムに注意して柔らかな表現を心がけるようにして下さい。

闊達自在な流麗さのある作品に仕上げましょう。



△漢字条幅▽ 評 山口 啓山

秀 峰 呼吸に乱れなく、貫通力

が群を抜く。

谿 沙 潤濁の変化を駆使し、軽

快に仕上げた。

聴 月 緊張感のある線質で、勁

さを充分に発揮。

惠 芳 大胆な含墨で、豊かな表

現が印象的。

泰 蕙 点画に切れがあり、爽快

感が漂う秀作。

壺 玉 自然な運筆で、心地良い

リズムを感じず。

嶽 心 腕法が安定していて日頃

の錬磨の結果。

珠 悠 澄んだ感覚で、優しさが

全面に出ている。

△仮名条幅随意▽ 評 大澤 梢光

緑 水 凛とした響き、切れのあ

る線のみごと。

斉 花 太めの線で、ゆったりし

た流れ印象的。

静 香 澄み渡る沈着な線。カス

しも効果的だ。

△通信条幅▽ 評 樋口 玄山

宮崎京楓 ネバリの強い線質が

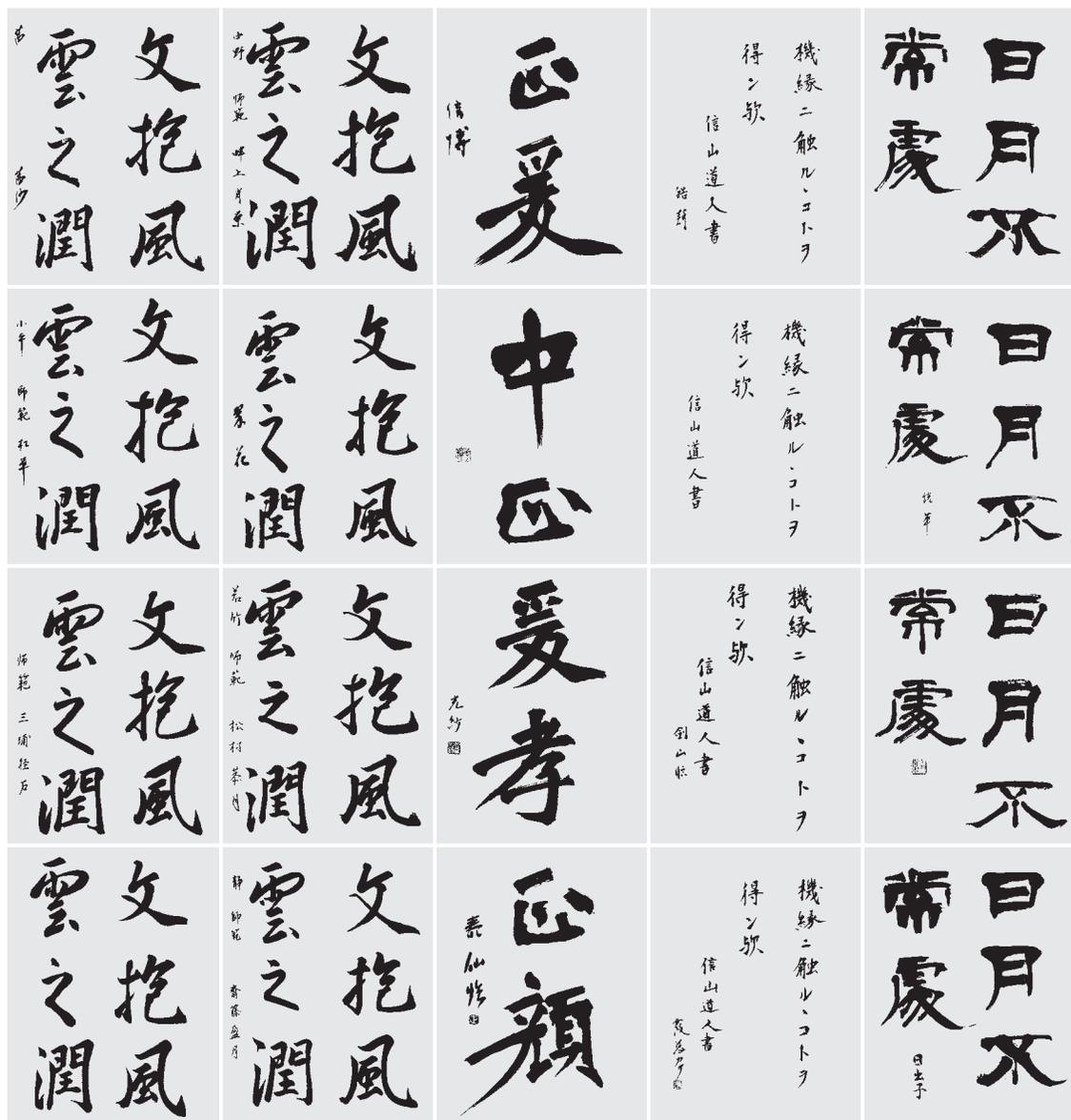
良い。

柳澤雪葉 全体感良く書かれてい

る。線質も佳。

島田壺峰 線に牙えがあり明るく爽

快に仕上げた。



基本課題 評 白濱 静苑

静 素 全体感すばらしい。のびやかで美しい。
統 華 墨量豊かで落着いた秀作。
白 葉 おだやかにうまくとめあげました。
日出子 線質が生き生きとして迫力ある作品。

研究課題 評 市澤 静山

春日皓静 逆筆の用筆で書かれた線がすばらしい。
平野壺桜 広さがありよい字形、まとも方もよい。
剣 山 重厚な線で大きさ程よく立派な作品。
霞 菖 用筆法に巧みで躍動感のある線はみごと。

古典研究 評 小室 墨汀

信 博 線質に限り無き発展性を感じる秀作。
花 仙 雰囲気のある作風で、格の高さを感じる。
光 紗 骨力充分で、形も写実性に富んでいる。
泰 仙 点画に精神を込め、気力充実の一点。

師範部

〈楷書〉 評 久保 妍山

肖 栄 修練の高さを感じさせる見事な作。大佳。
翠 花 動きのある線で軽快に仕上げられている。
恭 月 気脈のある線質で伸び伸びとした作品。
盈 月 大らかな書き振りで書けている。佳作。
茜 沙 切れ味の鋭い線でも安定した作である。
杠 華 線に潤濁、細太の変化ある作品になった。
徑 石 大胆な筆致で貫通力のある格調高い作。
未央 正確な筆使いで、全体構成もよい作品。



峰 弦豊かな線質で、伸びのある線もよい。
 孝 子 安定ある線で充実感のある作になった。
 景 草 骨力の強さが紙面を圧倒している作品。
 小 瑋 思い切りのよい伸びやかな線で出来た。
 成 華 大胆な運筆で温雅なまとまりがある作。
 汲 月 気迫が前面に出され骨力のある線質。
 龍 雲 軽快な運筆で、明るく仕上がっている作。
 麗 節 線に味わいがあり、表現が魅力的な一作。

〈仮名〉 評 中村 巍山

照 悦 清らかな線、大胆な運筆で佳作。
 清 遠 潤渇の対比みごと。作品も明るい。
 蘭 月 洒瀟な作品で淡々と書かれた秀作。
 峰 雪 大めの線でのびやかな作品で巧みさあり。
 豊 翠 含墨で豊かな線・形ともによい。
 泰 舟 基本に忠実でよい。澄みきった線だ。
 谿 眸 真剣な態度。錬成の効果がみられる。
 映 雪 甘い線で魅力的な線質が目映る。
 壺 水 骨力の強さが紙面を圧倒した秀作。
 天 妙 太め線で一貫している。芯の強さあり。
 静 澄 大胆な筆致で連綿大佳。格調高し。
 壺 藍 線・形もよい。料紙にマッチしている。

<p>中三 小林輝明</p> <p>技術</p>	<p>小二 名倉由翔</p> <p>そえん く</p>	<p>小四 西結香</p> <p>ばち 金魚</p>	<p>小六 松本那奈子</p> <p>発表 研究</p>	<p>中三 染谷紀織</p> <p>入選</p> <p>出品作</p>
<p>小五 大塚弘晴</p> <p>生地</p>	<p>小三 あかり</p> <p>そえん く</p>	<p>土筆 小四 和田美颯</p> <p>ばち 金魚</p>	<p>小六 藤澤こと葉</p> <p>発表 研究</p>	<p>中二 水野彩音</p> <p>入選</p> <p>出品作</p>
<p>杉小三 篠田雪乃</p> <p>紙</p>	<p>小一 しみずまお</p> <p>あき</p>	<p>三年 林早那</p> <p>ころ 雲</p>	<p>五年 愛美</p> <p>文章 長い</p>	<p>中 樽井駿典</p> <p>教室</p> <p>静かな</p>
<p>小一 だいぢ、</p> <p>石</p>	<p>小一 リサ、</p> <p>あき</p>	<p>小三 田中ゆづたい</p> <p>ころ 雲</p>	<p>小五 大嶋碧</p> <p>文章 長い</p>	<p>雅 平六 綾美</p> <p>教室</p> <p>静かな</p>

学生部

評 小川 仙章

染谷紀織 筆使い、形良く、品格の高い作品。
 水野彩音 一画一画の線が力強く好感が持てる。
 樽井駿典 豊かな墨量でのびやかに書けた。
 綾 美 伸び伸びとした連筆で、形よく書けた。
 那奈子 力強く粘りある線で良く書きあげた。
 こと葉 一点一画心をこめた美しい作品。
 愛 美 まじめな書きぶりで形がとても良い。
 大嶋 碧 しっかりととした線で堂々と立派。
 西 結香 大きく伸びやかに書けて力強い作品。
 和田美颯 ゆつたりとした筆使いで美しく書けた。
 林 早那 一字一字がとものびやかできもちよい。
 ゆうだい すなおな書きぶりでゆつたりきもちよい。
 名倉由翔 とても力づよく、りっぱです。
 あかり どつしりしたせんで形よくかけた。
 ま お おちついていていいねにかけた。
 り さ あかるくかたちよくまとめた。

半紙随意

評 白濱 静苑

小林輝明 行書の筆づかいがみごと。美しい作品。
 大塚弘晴 線もよく、形もどうどうとしていて立派。
 篠田雪乃 よい形にまとめ、線に力がある。
 だいぢ 形よくできました。力づよいです。

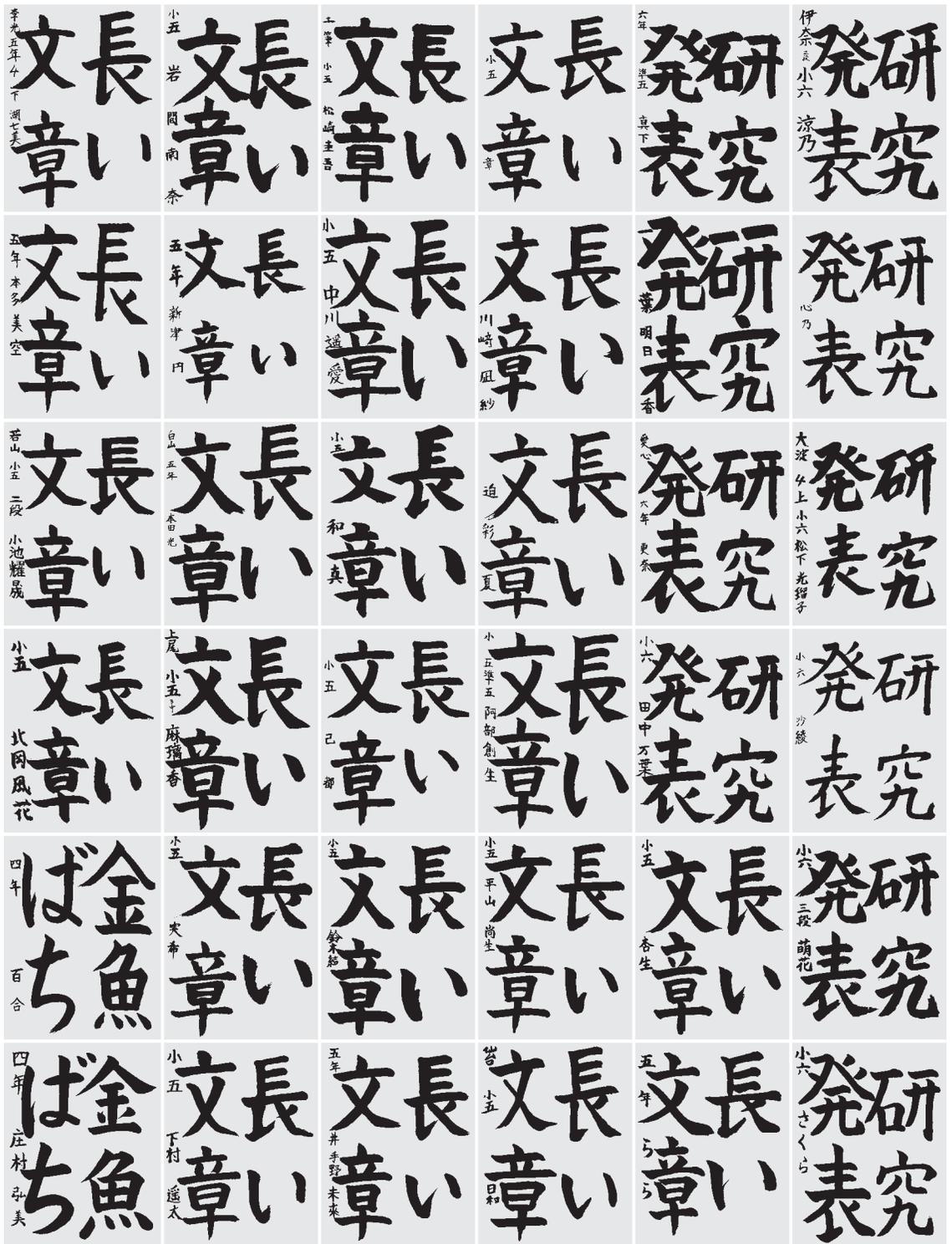
このページに掲載された人には書象会より記念の筆をさし上げます。

小六 十郎光希 研究 発表 表 究	美奈 六年半三結衣名 研究 発表 表 究	中 森みのり 教室 静かな	中一 北村望実 教室 静かな	中一 伊勢菜雨 教室 静かな	梨子 出品作 入選
小六 古川遥 研究 発表 表 究	小六 悠徳 研究 発表 表 究	中 林亮太 教室 静かな	有穂 中一五 藤耀子 教室 静かな	中一 六段 青山唯 教室 静かな	美奈中三 五段 彩香 出品作 入選
小六 寺井初 研究 発表 表 究	小六 唯美準初祐香 研究 発表 表 究	中 詩音 教室 静かな	中一 七段 菅野美活 教室 静かな	中一 七段 磯崎あやみ 教室 静かな	中三 萌光 出品作 入選
小六 山本夏歌 研究 発表 表 究	小六 五段 松村美徳 研究 発表 表 究	中 内田彩水香 教室 静かな	中一 愛心 教室 静かな	中一 小林千鶴 教室 静かな	中二 満田 未来 出品作 入選
小六 瑞希 研究 発表 表 究	小六 深野春花 研究 発表 表 究	中一 藤沢夏実 教室 静かな	中一 百谷田清仁 教室 静かな	中一 船橋中洋五 平野美奈 教室 静かな	中三 琴音 出品作 入選
小六 浜田郁南 研究 発表 表 究	小六 清水美穂 研究 発表 表 究	小六 陽菜 研究 発表 表 究	中 深海美優 教室 静かな	中 彩奈 教室 静かな	中二 松戸中二 未裕 出品作 入選

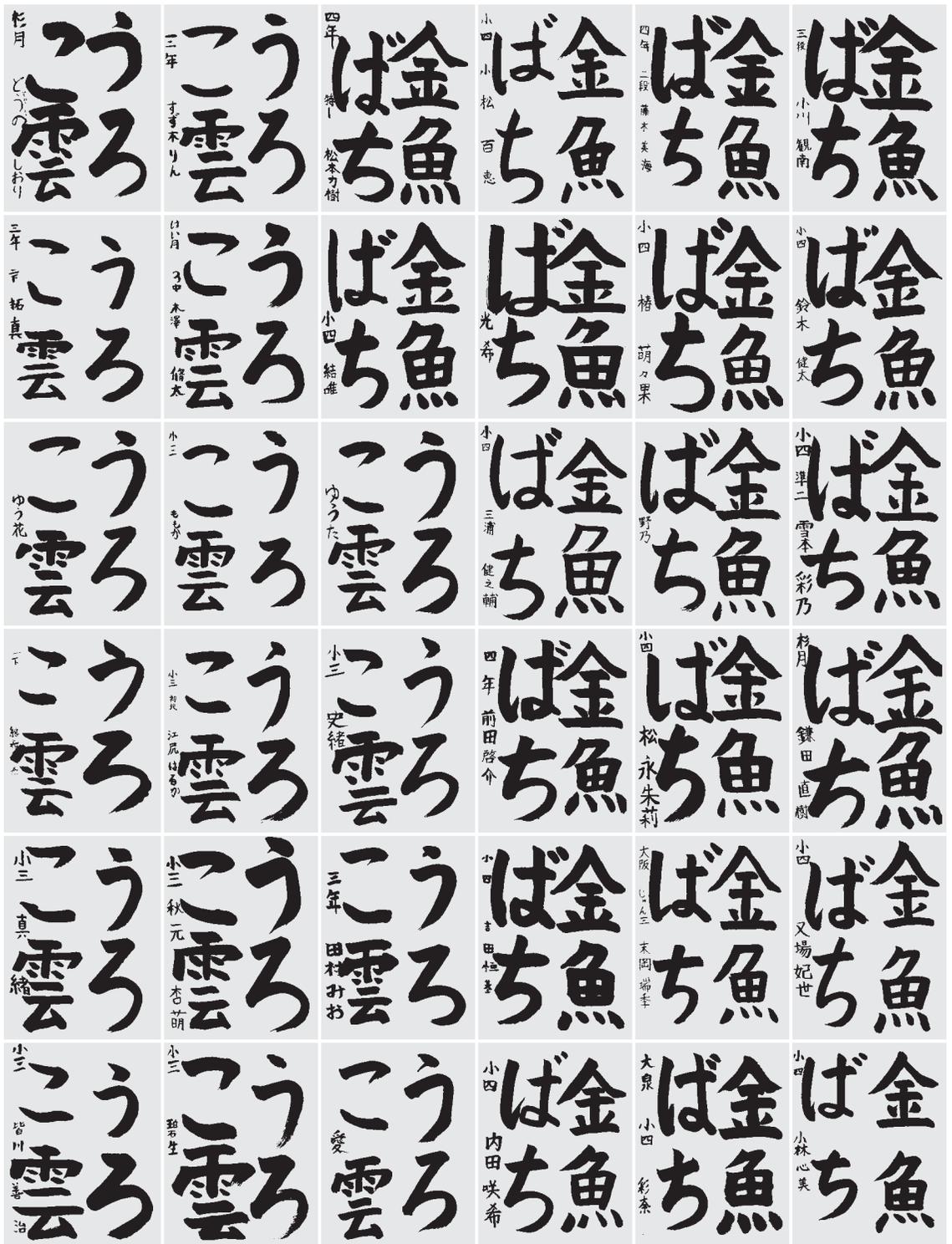
〔小六〕
城影 龍文 霞墨 有象 大象 杉竹 若竹 華雪 名東 晴美 荷葉 美菜 凜心
 浜田 野田 山本 寺井 古川 十郎 深野 松村 高宮 結陽
 郁南 瑞希 夏歌 翔遥 光希 春花 美徳 香悠 名菜

〔中一〕
中野 静翠 光丘 華雪 飯山 高社 有象 サン 折原 有穂 皓花 秀雪 船橋 美苑 若葉 名東 竹華
 藤沢 内田 詩 林 森 深 百谷 石橋 菅野 北村 彩 平野 小林 磯崎 青山 伊東
 夏実 彩水 音 亮太 みのり 美優 清仁 愛心 美海 望実 奈奈 千鶴 あやみ 唯 采南

〔中二〕
松戸 北府 蒲田 秀雪 美菜 玄樸 中二
 未 未 畑田 彩 虻川 梨子
 裕 音 来 光 香



<p>山愛 百 庄村 弘美 合</p>	<p>若山 北岡 小池 耀晟 風花</p>	<p>大田 本多 湖七 美空</p>	<p>李光 湖七 美</p>	<p>玄黙 下村 遙太</p>	<p>りん 麻一 山一 璃香</p>	<p>上尾 山一 璃香</p>	<p>白山 本田 光</p>	<p>柏心 新津 円</p>	<p>硯扇 岩間 南奈</p>	<p>源創 井手野 未來</p>	<p>志摩 鈴木 結</p>	<p>北府 己 都</p>	<p>倭 和 遙愛</p>	<p>中央 中川 圭吾</p>	<p>土筆 松崎 和</p>	<p>仙台 日平 尚生</p>	<p>華雪 阿部 尚生</p>	<p>葉月 阿部 創生</p>	<p>山愛 迫崎 彩夏</p>	<p>高風 川崎 風紗</p>	<p>汀楓 章 ら</p>	<p>シイ 杏 ら</p>	<p>光丘 杏 ら</p>	<p>中野 田中 万葉</p>	<p>愛心 堀口 明日香</p>	<p>一葉 堀口 明日香</p>	<p>朝日 真下 桃子</p>	<p>花蓮 古渡 さくら</p>	<p>綾華 新井 沙綾</p>	<p>玄嶽 萌井 花</p>	<p>大淀 松下 光瑠子</p>	<p>若松 心 乃</p>	<p>伊奈 涼 乃</p>
-------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------	------------------------	-------------------------	--------------------------------	-------------------------	------------------------	------------------------	-------------------------	--------------------------	------------------------	-----------------------	-----------------------	-------------------------	------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-------------------------	--------------------------	--------------------------	-------------------------	--------------------------	-------------------------	------------------------	--------------------------	-----------------------	-----------------------



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| たけ | 有虹 | 石峯 | 琥山 | 東陽 | 杉月 | 月 | 八潮 | 青雲 | 蓮田 | 溪月 | 書之 | 玄黙 | 湊 | 華雪 | 成城 | 小三 | みな | 河野 | 有穂 | 瑞祥 | 書之 | 秀雪 | 一絵 | 照澤 | 大泉 | 大阪 | 飯山 | 龍文 | 霞墨 | 皓花 | 御代 | 華雪 | 杉月 | 名東 | 練馬 | 美五 |
| 皆川 | 伊藤 | 結希 | ゆう | 拓 | 堂笠 | 飯村 | 秋元 | 江尻 | もも | 木澤 | すず | 布山 | 田村 | 岡村 | ゆう | 結 | 松本 | 内田 | 吉田 | 前田 | 三浦 | 光 | 小松 | 彩 | 末岡 | 松永 | 河合 | 椿 | 藤木 | 小林 | 又場 | 鎌田 | 雪本 | 鈴木 | 小川 | |
| 善治 | 真緒 | 奈 | 花 | 真 | 碧生 | 杏萌 | 杏萌 | か | か | 脩太 | りん | 愛 | みお | 史緒 | た | 唯 | 力樹 | 咲希 | 恒基 | 啓介 | 輔 | 希 | 百恵 | 奈 | 瑞季 | 朱莉 | 野乃 | 美海 | 心美 | 妃世 | 直樹 | 彩乃 | 健太 | 観南 | | |

小一 やまもとこうほ あき	小二 加刀由社 えん そく	小二 まお えん そく	小二 しおたにかれん えん そく	三年 楓 うろ こ雲	三二 全日和 うろ こ雲
小一 みゆ あき	三二 八上とやあつね えん そく	三二 こずのこも子 えん そく	小二 原口ゆく えん そく	小三 山田安文 うろ こ雲	小三 高野修茶 うろ こ雲
一 ねんごしごしのかのト あき	小一 あやの あき	三二 まがやゆう えん そく	小二 小山ひせこ えん そく	小三 倉形玲華 うろ こ雲	小三 宮岡健士郎 うろ こ雲
五下 林な あき	一 ねん しぎだぞく あき	八下 しゆうと えん そく	鈴鹿 小八下まのみまり えん そく	二年 いわはらちひろ えん そく	虹友 小三 白井まみ うろ こ雲
小一 白井あやめ あき	たいち あき	小二 あや えん そく	小二 はじりめがき えん そく	二年 あられ えん そく	小三 松本悠生 うろ こ雲
8中 はるか あき	太二 かろや さくらい日か あき	小二 かも田ゆか えん そく	あやこ えん そく	二年 佐々木もも えん そく	三年 も上 藤田翔 うろ こ雲

【小一】

大 象 あやの
 硯 しまだぞく
 知床 矢野 太一
 大阪 日 果歩
 華雪 山本 果歩
 光丘 小林 みみ
 神奈 佐々木 香音
 美二 大嶋 羽菜
 好野 白井あやめ
 宮川 はるか

【小二】

大 田 ちひろ
 富貴 菊地あられ
 玄樸 佐々木もも
 凜心 かれん
 華雪 原口 結衣
 若竹 ひさこ
 鈴鹿 ひまり
 竹華 ゆうき
 若松 あやこ
 蓮田 まお
 松聲 ともお
 新城 すがやゆう
 美二 長谷川 脩斗
 茅野 あや
 山田 鴨田 ゆな
 若宮 刃刀 由衣
 彩筆 とやあやね

硯 日 和
 和 優 奈
 富士 宮岡健士郎
 虹友 白井まみ
 練馬 松本 悠生
 小光 藤田 翔
 山愛 楓
 霞墨 山田 愛
 秀雪 倉形 玲華

西秋三朝
てゆく、書を
いふ抱負を
てゆく

さわやかな風の中を自転車に乗った景色がとてきれいに見えました。
湊中一初段
小内美優

今年の十月八日は月食の日。天候がよければ全国で見ることができると見えました。
小西理紗

今年の十月八日は月食の日。天候がよければ全国で見ることができると見えました。
霞葉五、五十
佐久間萌可

秋はれの空、木の葉が色づいて、かきの実が赤くなりました。
大東三、小三、三
木村遥

夕がたには、草むらさきがなまき。夕がたには、草むらさきがなまき。
桐澤やまと

夕がたには、草むらさきがなまき。夕がたには、草むらさきがなまき。
正三、二、一
松井理子

西秋三朝
てゆく、書を
いふ抱負を
てゆく
志摩 師 藤月卯

さわやかな風の中を自転車に乗った景色がとてきれいに見えました。
中一、二段
長瀬孔之介

今年の十月八日は月食の日。天候がよければ全国で見ることができると見えました。
八瀬六、三
佐久間桃

秋はれの空、木の葉が色づいて、かきの実が赤くなりました。
結馬三、二、一
山畑あいな

秋はれの空、木の葉が色づいて、かきの実が赤くなりました。
有馬三、小三、三
大石ひかり

夕がたには、草むらさきがなまき。夕がたには、草むらさきがなまき。
志摩三、二、一
いわけゆか

夕がたには、草むらさきがなまき。夕がたには、草むらさきがなまき。
三、二、一
まきまきまきまき

たかまきのこの秋はきりりとした空に、さよふかしくなるといふ人々に
信大梓虹

今年の十月八日は月食の日。天候がよければ全国で見ることができると見えました。
雅三、二、一
飯島陽奈

今年の十月八日は月食の日。天候がよければ全国で見ることができると見えました。
結馬三、二、一
飯島陽奈

秋はれの空、木の葉が色づいて、かきの実が赤くなりました。
信三、二、一
飯島陽奈

秋はれの空、木の葉が色づいて、かきの実が赤くなりました。
信三、二、一
飯島陽奈

夕がたには、草むらさきがなまき。夕がたには、草むらさきがなまき。
まきまきまきまき

夕がたには、草むらさきがなまき。夕がたには、草むらさきがなまき。
柳下征二郎

さわやかな風の中を自転車に乗った景色がとてきれいに見えました。
中一、二段
南 紗英

今年の十月八日は月食の日。天候がよければ全国で見ることができると見えました。
龍文三、二、一
菊地幸乃

今年の十月八日は月食の日。天候がよければ全国で見ることができると見えました。
手寄三、二、一
又場匠

秋はれの空、木の葉が色づいて、かきの実が赤くなりました。
信三、二、一
川口菜々香

秋はれの空、木の葉が色づいて、かきの実が赤くなりました。
信三、二、一
川口菜々香

夕がたには、草むらさきがなまき。夕がたには、草むらさきがなまき。
有馬三、二、一
書之 虹 くるみ

夕がたには、草むらさきがなまき。夕がたには、草むらさきがなまき。
有馬三、二、一
書之 虹 くるみ

信大 梓 虹 月 水

龍文 菊地 幸乃

手寄 又場 匠

信三 川口菜々香

信三 川口菜々香

有馬 書之 虹 くるみ

有馬 書之 虹 くるみ

信大 梓 虹 月 水

龍文 菊地 幸乃

手寄 又場 匠

信三 川口菜々香

信三 川口菜々香

有馬 書之 虹 くるみ

有馬 書之 虹 くるみ



第31回 成田山全国読書大会

開催のお知らせ

主催：成田山全国読書大会実行委員会
後援：中国大使館・読売新聞社

全国の少年少女を対象に、第三十一回成田山全国読書大会は明春成田山で開催、特別賞受賞者が中国へ派遣されます。どうぞ奮ってご応募下さい。

▼出品受付—平成二十七年一月二十五日(日)～三十一日(土)
各地区提出先へ送ってください。

▽対象 象—小学生(幼児は小一を含む)／中学生／高校生
▽作品種類—記載は標準寸法です。

小・中学生の部 半紙 33×24.3 cm 美濃判は不可
条幅 68×17.4 cm 小画箋半切四分の一
高校生部 半紙 33×24.3 cm 美濃判は不可
条幅 135×34.5 cm 半切(大)
タテヨコ自由

▽課題 自由 但し小学生は六字以内、中・高校生は字数も自由

▼十一月下旬、応募要項で詳細を発表、従来の出品者にはお送りします。

▼書象会関係委員

実行委員……………田 中 節 山
関東地区実行委員……………市 澤 静 山
東京地区審査委員……………内 藤 望 山
事務局委員……………杉 山 暁 雲

▼お問合せ・お申込は：

〒160-0001 武蔵野市吉祥寺北町四一三二六
書象会成田山全国読書大会係
TEL・FAX 0422-5319743

平成二十六年十二月一日発行(毎月一回)第六十二巻 第十二号

通巻七〇九号

http://www.shoshou.com

定価六〇〇円 送料八二円

(ケロネメール便)

書象会便り

◆改組 新 第一回日展 本会から十四名が入選
(入選) 大澤梢光 萩田光山 恩田静月 久保妍山
小淵石峯 渋谷峻雲 杉山暁雲 鈴木草影
竹内墨洋 仲島秀峰 樋口玄山 宮本耕成

〈会 員〉 市澤静山 田中節山 内藤望山
柳澤玄嶽 山口啓山
◆第77回謹慎書道会展審査員決まる
(特別賞選考委員) 市澤静山 田中節山 内藤望山
(本会当番審査員)
田中節山(審査副主任・審査進行)
市澤静山(審査進行)
石丸暁風 久保妍山 末永暁華 杉山暁雲
竹内墨洋 竹内藍山 寺尾碩雲 西野江月
二瓶嶽風 宮本耕成 柳澤玄嶽

☆《書展予告》
☆第6回岡毛新アト展
会期 10月31日(金)～11月14日(金)

会 場 I N O J I N 工芸倶楽部(桐生市)
出 品 者 大澤梢光(本会関係)
☆第39回玄墨展
会期 11月14日(金)～17日(月)

会 場 山形県芸文美術館ギャラリー12
(ナナビーンズ6F)
主 催 書象会山形支局 玄墨会
☆第7回葛飾現代書展
会期 11月15日(土)～21日(金)

会 場 かつしかシンフォニーヒルズ
出 品 者 小川仙草 露崎玄峯(本会関係)
☆第53回釋教(成蹊大学文化祭)書道展
会期 11月15日(土)～16日(日)

会 場 成蹊大学(武蔵野市吉祥寺)
出 品 者 二瓶嶽風 萩田光山(本会関係)
☆第5回書象会大阪支部展
会期 11月28日(金)～30日(日)

会 場 誠華堂ギャラリー(大阪市中区)
主 宰 藤澤珠玉先生

☆《書展報告》
☆第36回小平市民書道展
会期 10月30日(木)～11月2日(日)

会 場 ルネこだいら
出 品 者 藤岡月華他十一名(本会関係)
☆第64回杉並区総合文化祭書道展
会期 10月3日(金)～10月7日(火)

会 場 セシオン杉並
出 品 者 二十一名(本会関係)

☆第41回千葉日報書道展
秀拔展優秀作品 延吉天龍(本会関係)
☆第47回一照会書道展
会期 10月24日(金)～26日(日)
会 場 西駅交流センター(舞鶴市)
主 宰 多田照楓先生

書象会総会・新年会のお知らせ

左記の通り開催いたします。
多数ご参加下さいますよう御案内申し上げます。
日 時 平成27年1月25日(日) 正午～14時30分
会 場 京王プラザホテル5階
「コンコードボールルーム」
会 費 一万五〇〇〇円
※尚、新年会に先だち11時より47階「あけぼの」にて授号式が行われます。

お願い

・送付部数の変更がある場合は、発送準備の都合上、当月の十日までにご連絡ください。(TEL・FAX可)
・書象会事務局の業務は月曜日から金曜日の午前九時から午後五時です。送付物配達指定などはこの時間内にお願ひします。

氏名	発行人 (有) 書 象
	代 表 上 條 貞 子
	東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三二六
	郵便番号180-0001 電話0422(五三)九七四三
	振替口座 〇〇一九〇一七一二五六九一
	振替名義 (有) 書 象
	印刷所 (株) 高 千 穂 印 刷 所